

各 位

上場会社名 株式会社 テレウェイヴ  
 代表者 代表取締役社長 齋藤 真織  
 (コード番号 2759)  
 問合せ先責任者 取締役 経営管理管掌 高梨 宏史  
 (TEL 03-5339-2301)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,489	211	212	1	2.37
今回発表予想(B)	10,312	215	296	△30	△58.21
増減額(B-A)	△177	3	83	△31	――
増減率(%)	△1.7	1.8	39.6	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	8,675	△826	△924	△1,643	△3,191.33

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	23,199	699	700	220	427.18
今回発表予想(B)	21,716	699	700	220	427.18
増減額(B-A)	△1,483	0	0	0	――
増減率(%)	△6.4	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	18,373	△395	△486	△3,533	△6,858.97

## 修正の理由

(1)平成21年3月期第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

当社グループは、当期を基礎構築期第2フェーズとして、中長期的な安定成長に向け、強固な収益基盤を確立することを目指し、経営支援サービス本流化のための土台作り、マネジメント強化、インフラ整備に取り組んでまいりました。

売上高につきましては、ITパッケージの営業生産性が安定化してきたことや、開業支援サービス強化を目的として飲食店の出店支援会社を子会社化したこと等により、概ね計画どおり進捗いたしました。

営業利益につきましては、開業支援サービス子会社化により、売上原価が計画を上回りましたが、外部委託費等のコスト調整を行ったことにより、概ね計画どおり進捗いたしました。

経常利益につきましては、営業外収益として子会社において違約金収入34百万円を計上したこと等により、計画を上回る結果となります。

当期利益につきましては、子会社による固定資産除却損88百万円、時価のない投資有価証券売却損59百万円及び評価損54百万円、投資事業組合清算損36百万円等の特別損失が発生したこと等により、計画を下回る結果となります。

これらの理由により、上記のとおり売上高10,312百万円、営業利益215百万円、経常利益296百万円、当期純利益△30百万円となります。

(2)平成21年3月期通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

期初計画において売上原価として計上していた下半期営業開始のヤフー新商材に関し、ヤフー株式会社への外注費について売上高から控除する方法(純額表示、ネット表示)に変更することとなりました。当該変更は、ヤフー商材の事業拡大の中、当社とヤフー株式会社との役割分担を改めて検討した結果、売上高を純額で表示することがより合理的であると判断したことによります。その結果、売上高は約7億円少なく計上されております。その他、昨今の景気動向を勘案し、従前よりも8億円弱売上計画を保守的に策定いたしましたため、従前予想値と比較して売上高は1,483百万円少なく計上されております。売上計画の調整部分に関しては、売上原価及び販売管理費の管理強化で吸収する見通しであり、営業利益、経常利益、当期純利益への影響はありません。

※本資料に記載されている業績見通し等の修正に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上